

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2671400261		
法人名	株式会社エバカラ		
事業所名	エバホーム		
所在地	京都府木津川市梅見台2丁目1-1		
自己評価作成日	平成31年3月11日	評価結果市町村受理日	令和元年6月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouCd=2671400261-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成31年4月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別ケアに力を入れています。起床時間、就寝時間、居室での時間など、個々の生活リズムを尊重した生活を送って頂いています。利用者一人一人に対し、機会あるごと聞き取って、ご本人の思い、ご家族様の思いを日々のケアに取り入れ、満足度をあげています。生活な中では食の支援に特に力を入れています。利用者が食べたい物、喜んでくれる物を、利用者との関わり合い(会話)の中から、情報を集め、献立を考えています。季節感、旬の物、地元の物、郷土の物等を取り入れています。食事中は出来るだけ職員も卓を囲み団らん。気付いた事は職員同士共有し、次に活かしています。利用者に対するケアは、職員は誰がしても同じ事ができるように、統一したケアを行う、その為に、日々振り返り、情報交換、共有し、気付きをもち、技術を高め合い、利用者の求めるケアに等しく答えられるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は利用者が楽しく暮らすことが出来るようにと個々のペースに合わせ時間に縛られることなく好きなところで過ごしたり、利用者が出来る事に携わり共同生活を行えるように支援し、利用者の尊厳を大切にしながら「自分たちもここに住みたい」と思えるような事業所作りを心掛けています。毎月「ひとこと通信」を作成し家族に送ったり年に一度行われる親睦会ではスライドショーで利用者の日々の暮らしを見て貰っています。また、管理者はキャラバンメイトの調整会議に出席しその活動やキッズサポーター研修の手伝いをするなど認知症への理解に向けて協力しています。地域の商店から米を購入したり近隣のコンビニや喫茶店、動物病院等交流も増え、職員は笑顔で利用者や家族、地域の方々の協力のもと馴染みの関係を築き地域に根差した事業所となるよう日々取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に運営理念を掲示して、日々確認出来る様にしている	事業所理念は職員が出勤時には必ず目にする申し送り板の表紙にし理念を認識できるようにしています。また、入職時には理念に込められた思いや内容を伝え職員が同じ方向性を共有し日々の支援の中で利用者と関わり実践に繋がっています。今後職員が理念を振り返る機会を持ちたいと考えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のクリーン運動に参加している。又、幼稚園児達の来園やボランティアを招いて交流をしている。	自治会に入会し回覧板等で地域の情報を得て利用者と一緒にクリーン運動に参加したり、秋祭りには御神輿が事業所に立ち寄ってもらっています。併設する保育園の園児の来訪があり定期的に交流しています。米は地域の米屋を利用し配達してもらい、また地域のコンビニや喫茶店にも出かける等関わりが深まる様に取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市役所の月一回第一月曜10時からキャラバンメイト調整会議に出席している。その際、養成講座実施計画を聞いてシフト調整して現場に向く様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議時に、日々の介護の取り組みや月の行事や活動報告をスライドショーにて説明している。又、出席者(家族様・包括・市役所・地域代表)の生の声を頂いて、意見交換をしている。	2カ月に1度開催される運営推進会議には利用者や家族、地域住人や市の高齢介護課の職員、2か所の地域包括支援センター職員等が参加し年間計画や振り返りも含め議題を決めて開催しています。利用者の状況はスライドで説明し、身体拘束に仕組みや看取りを行った経過についても報告し意見交換を行い、それぞれの立場から意見やアドバイスをしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	アンケート依頼等、出来るだけ協力している。日々変化する内容等、気軽に聞ける雰囲気作りが出来ている。	運営推進会議に市の担当者が出席しており、事業所の取り組みや現状を伝えています。必要な書類は直接提出に向いたり問題点や制度上の分からない事は電話で相談しています。市主催のキャラバンメイトの活動やキッズサポーター研修、調整会議に協力したり、涼やかスポットとして事業所の登録も行っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	情報開示の際のレジュメを使ってスタッフ会議の時(年2回)、身体拘束について周知している。精神面(外にでない)拘束も勉強している。又、運営推進会議に於いても伝えている。	身体拘束に関する研修は年に2回実施され、具体的な例を挙げて説明し、身体拘束に繋がらない取り組みを行っています。メゾネットという構造上エレベーターが設置されており自由に使い行き来しています。また、安全な介助を行う為にセンサーマットを使用している方もいますが家族にも使用目的等を説明しています。外に出たい様子が見られた場合は職員が付き添ったり見守りながら外気浴や散歩を支援しています。	

エバホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はしていない。確認する為に小さな事(あざ等)その都度インシデントを記載している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中で制度を利用している方がいる。その人の今後の事を含め、制度について説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項の説明や利用契約書を文書で示し、時間をかけて説明している。又、質問を聞きながら確認して頂いている。又、難しい事だが質問が出来る様な雰囲気を作っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は、日頃の対応や会話の中で、意見・要望をくみ取るように心がけている。ケア会議等で情報交換や意見交換を行い運営に活かしている。又、カンファレンスとして、ケアプランも記載している。	毎月家族に送る便りで利用者の様子や医療状況を伝えたり些細な変化も電話で報告し、面会時に意見や質問、要望を聞く他、年に1度行われる家族親睦会や満足度アンケートを実施しており、得られた意見に対して出来る事から速やかに対応しています。また、利用者との日々の会話から食べたいものや行きたい所を聞きサービスに反映出来るように取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関しては、出来る限り9人満床維持を心掛けている。その都度利用者の気付きを報告できる様に、ノートを用意している。その都度、確認しサインしながら仕事をしている。話しやすい環境を作り、日々の会話の中から意見を拾い上げている。	日々の業務の中や連絡ノートを用いて職員の意見や提案を聞き毎月行われる会議で検討し出来る事から取り組んでいます。利用者と一緒にレクリエーションの企画が職員から提出され実践後振り返りも行うなど意見が反映されています。悩みを抱えている職員には随時面談を行い、悩みや思いを聞き仕事しやすい環境作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社には、楽ちんキャリアアップ制度がある。年3度勉強し、試験にチャレンジ出来る。合格すれば給料UPもある。向上心を持って働けるような職場環境になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昭和生まれ、平成生まれと時代差があるが、福祉の世界で自信を持って働ける様、教育活動に力を入れ取り組んでいる。年3回のチェックリスト入力と、評価、介護プロ試験の、達成度、評価制度を取り入れている。		

エバホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ施設内、グループ内、又、実践者研修等、積極的にテーマに取り組んでいる。受けた職員は月一回の会議でフィードバックして全員に周知している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの際、可能な限りその人の背景を知るよう努めている。キーパーソンには困ったことがあればすぐに電話して教えてもらい認知症の方のフォローをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の困っている事、家族の困っている事、それぞれ受け止めエバホームを在宅として受け止めて頂ける様連絡しあっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプラン・家族対応等(個別援助計画ノート)確認しながら自立できる様支援をさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	GHらしく、出来る事をお声掛けをしてやっている。年々出来なくなっていく事を認め出来る事を確認し合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、スタッフから一言通信(その月のお体の様子・暮らしの様子をまとめたもの)や笑顔便り(その月の行事などを写真で集約したもの)を送付している。その他に、様子見つづ個人に電話で報告連絡もする。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚やご友人にも気軽に立ち寄っていただけるように努めている。手紙や、電話等があった際もこれまで通りに交流できるよう支援に努めている。	家族以外にも知人の来訪もあり、また散歩や買い物に出かけた際には知人と出会うこともあります。家族の協力の下馴染みの美容院に出かけたり自宅に立ち寄る方もいます。手紙や年賀状も徐々に書けなくなってくる中、貼り絵や一言添えて年賀状を作成して知人に出せるように工夫し宛名書きや投函の支援を行い馴染みの関係が途切れないように取り組んでいます。	

エバホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がコミュニケーション作りが出来るように職員が中に入り、共通の話題を見つけたり、全員で出来るレクリエーションを行い、お互いを良く知り、信頼関係を育てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去後、お写真を送っている。49日、1周年など、節目で、お礼の手紙や電話のやりとりがある。また、退去後、亡くなった事を教えて下さる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	エバホームは、特に食事に力を入れている。「今日、何が食べたい?」と聞いて食事作りをする事がある。	入居前に自宅や病院、施設などに出向き面談して本人や家族の希望、生活歴や家族歴、身体状況や好きな事等を聞き取り、また今まで関わっていた事業所等からも情報を得て思いの把握に繋がっています。入居後は日々の関わりの中で様々な気づきを基に会議の中で話し合い本人の意向を汲み取り職員間で共有できるように取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報や入居後にアセスメントシートに記入し、把握に努めている。ご本人、ご家族から話を聞いて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各個人ノートを用意している。職員はノートに気づきを書き情報交換し現状維持に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議の際には気になる方を優先に話し合意をしてケアの方向を統一している。又、Dr、Ns等多職種に相談している。	利用者や家族の意向、アセスメントを基に介護計画を作成しています。入居後1カ月は暫定プランを基にカンファレンスと評価を実施し見直しを行っています。毎月の会議で利用者の様子や変化について話し合い3か月毎に評価を行い変化が無ければ6か月で見直しを行っています見直しに当たっては再アセスメントとカンファレンスを実施し本人と家族の意向の再確認をし、必要に応じて医療情報も参考にして介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイル・個人ノートを作って記録している。様子の変化や、取り組み内容を確認、日々のケアに活かしている。		

エバホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の食事、季節の行事を大切にしている。たまには、ぶっつけで行事をする時もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のコンビニ、カフェ、歯医者、整形外科、薬局でお世話になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康管理をしてくださるDr・ナース・薬局の協力を得ている。身体的コントロールは、その都度希望を聞き入れている。	入居時に今までのかかりつけ医を継続出来る事を説明しています。協力医の往診は2週間に1度あり24時間連絡が取れ相談が出来る体制が構築されています。専門医への受診は家族が同行し書面で情報提供を行い結果は家族より報告を受けていますが、場合によっては職員が同行することもあります。週に1度訪問看護師による健康管理を受けたり、必要に応じて眼科の往診も受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で気付いたこと等を看護師に伝え、相談したり、適切な受診や看護ができるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族を交えて病院の担当者との現状や予後話し合い、安心した治療と早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けてはご本人、ご家族、の希望に応じ医療面、看護面、介護面の連携対応していく。	入居時には重度化した場合の対応について説明を行い、状況に応じてかかりつけ医より家族に説明し話し合い今後の方針を決めています。家族の協力も得ながら看取りを経験した職員もおり可能な限り希望に添えるよう支援を行い、事業所の構造上看取りの際には夜間の職員を増やすなど体制を整えています。看取り支援後は写真を纏めアルバムにしてお彼岸に家族に届け故人を忍んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルにて職員に周知徹底している。		

エバホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練計画を策定し定期的に消防職員立会のもと訓練を実施している。	消防訓練は年に2回実施し内1回は消防署の立会いも下通報から避難誘導を行い、水消火器を使った消火訓練も行い評価やアドバイスを受けています。訓練には併設している他のグループホームや保育園も合同で行っています。近隣の住人の中には災害時には協力が得られることを申し出てもらっています。備蓄としてパンや水、缶詰等の食料、懐中電灯やカセットコンロなどを備えています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人の人格を尊重した言葉かけや対応をするよう職員の意識統一を図っている。	年に1度接遇やマナー研修を実施し、運営方針や理念にも利用者の尊厳について定めています。利用者には基本的には敬語で優しい言葉遣いをする様に指導をしていますが、本人が希望する呼び方を家族と相談し失礼が無い様に対応している方もいます。希望があれば同性介助も出来る限り行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望の献立や希望のレクリエーションの内容をご本人に聞きながら自己決定を意識して取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者個々の希望のライフスタイルで過ごして頂ける様にその人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が服装の選択が出来るようにその人に応じて声掛けや介助をし、毎日の着替え洗濯で、いつも同じにならないようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食べられる様、心掛けている。食事の時間は団らんの場。職員も利用者の間に椅子に座る事を心掛けている。食後のお膳下げやお盆拭き等も快くして下さっている。	毎日の献立は冷蔵庫の中の食材を見て利用者の希望を聞きながら、その日に決めています。利用者には盛付けや後片付けなどできることに携わってもらい、職員も一緒に食事を摂り団欒の場となるよう配慮し、食材は新聞広告などを見て季節感のあるものや好みを聞きながら近隣のスーパーで買っています。時には寿司やファーストフードなどをテイクアウトすることもあります。手作りおやつを楽しむこともあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	アガーで作ったゼリーを三食で110CCご用意(味はその都度変えている) 水分摂取制限のある方など、個々の必要量を確認し、提供している。		

エバホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯磨き誘導を行っている。その際、口腔内の状態を確認している。義歯は夜間洗浄しお預かりしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録にて排泄パターンを把握している。トイレ誘導や介助はさりげなく行って自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄を基本とし、排泄チェックを行うことにより個々のリズムを把握すると共に表情や行動など些細なサインを見逃すことなくその人に合わせて誘導を行っています。失敗が少なくなった事で意欲も出て自分でトイレに行けるようになった方や安心のために紙パンツ、夜間のみおむつを使用する方もいる等、個々の意思も尊重しながら自立に向けた支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりやすい利用者様がおられるので、野菜や果物、ヨーグルト等を摂取していただけるよう心掛けている。体操や散歩等毎日運動する様取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の希望を聞き、ゆっくりと入浴して頂けるようにしている。入浴中はプライバシーに配慮するようにしている。	入浴は時間帯や曜日を決めず体調や希望に合わせて週に2回を目途に対応し、時間帯や回数も相談に応じています。入浴を拒む方には、無理に勧めることなくタイミングと声かけを工夫して脱衣室へ案内しています。季節のゆず湯や菖蒲湯、入浴剤や好みの石鹸やシャンプーを使い一人ずつゆっくりとコミュニケーションを取りながら入っています。また脱衣室にはストーブを置くなど浴室との温度差にも配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を通し、個々に合った生活のリズムを作るようにし、安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や副作用・容量は医師の指示等を確認し支援にあたっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お盆拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみ、フロアの掃除、等利用者様にあった役割分担をしている。		

エバホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段は、天気の良い日は近所に散歩や、コンビニと一緒に買って買い物、コーヒーを飲んだりしている。花見や紅葉狩り等、季節のイベント、ドライブ、スターバックス等に、希望を聞きながら一緒に考えて、出かけている。	天候や体調に合わせて散歩や買い物ドライブに出かけています。玄関の花の水やりやベランダで洗濯物を干したり駐車場に椅子を並べ外気浴をする等外気に触れる機会を作っています。近隣のコンビニや喫茶店でコーヒーを飲みに行ったり、花見や紅葉狩りなど季節を感じる外出や牧場でコスモスを見てアイスクリームを食べる等の外出行事を企画して出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者が買い物を希望したり、コンビニへの買い物を同行された時はご本人が買い物をして、利用者自身で支払い、つり銭を受け取るなどして頂ける様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物や手紙が届いたときは、電話やお手紙の支援をしている。ご家族様やご友人からの電話は取りついて直接話していただける様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	メゾネットなので、毎日エレベータを使用し、2F、3Fと行き来する。玄関には季節感ある手作りの飾り物を貼り、季節を感じて頂いている。又、一緒に飾り物作成にも加わってもらう。	共用空間は毎日換気を行い利用者にも清掃に携わってもらい清潔な環境を保てるように心がけ、利用者の体感も確認しながら温湿度の調整を行っています。利用者が集う食卓の他テレビ前にソファ、各エレベーター前にソファが設置され好きな所で休んだり一人になれる場所があり、生花や季節の作品を飾り心地よい空間になる様に工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家庭的なリビングで、一人一人がゆったりと穏やかに過ごして頂いている。又、楽しくご利用者様同士で会話を楽しまれている。利用者様の相性など踏まえ、座席配置を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様が使い慣れた家具(鏡台など)を持ち込まれ安心して暮らして頂いている。	入居時に使い慣れた物を持って来てもらうよう説明し、本人の希望や安全に配慮し家族と相談して設置しています。筆筒や三面鏡、家族の写真や趣味の本、テレビなどを持参しています。毎日の換気や掃除を行い心地よく過ごせる様に環境を整えています。また、希望により布団を敷いて休むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	花を飾り季節を感じて頂いている。又、その月のカレンダーを(利用者の手作り)一ヶ月の予定を書き込んだりしている。		